

人を育て、命を守る – カンボジアに根付く救急医療と

市民の力

■ 実施団体：

- ・ 特定非営利活動法人TICO
(提案自治体：香川県高松市)

■ 対象国・地域：

カンボジア国・バタンバン州

■ 現地カウンターパート

- ・ カンボジア保健省
- ・ バタンバン州保健局

■ 協力内容：

- ・ カンボジアの実情に即した救急医療研修コースの構築
- ・ 救急医療従事者（プロバイダー）およびインストラクターの育成、試験 制度の整備
- ・ 市民を対象とした応急処置法の普及、教材・動画の作成

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・ 高松市は市民団体と連携し、草の根技術協力を通じた国際協力を推進
- ・ TICOはカンボジア、ザンビア等で医療・人材育成分野の協力を継続
- ・ 過去の草の根技術協力事業での救急医療人材育成の知見を活用

■ 事業実施の背景：

- ・ 交通事故増加に対し、地方部では救急医療体制と人材が不足
- ・ 救急医療に関する研修コースやカンボジア語教材、統一されたガイドラインや手順書が未整備
- ・ 市民の間では誤った民間療法が根強く、正しい応急処置の普及が必要



カンボジア国の課題と成果

課題① 救急医療に対応できる人材および研修・試験制度が存在せず、継続的な育成が困難

成果① カンボジア語による研修プログラムと試験制度を整備し、救急医療従事者（プロバイダー）50名以上、インストラクター14名を養成

課題② 一般市民の応急処置に関する知識不足と誤った処置方法の蔓延

成果②

住民向け応急処置ハンドブック（14,000冊）を作成・配布し、260ヶ所でワークショップを実施、正しい処置への理解が大幅に向上



事業の波及効果



カンボジアの救急医療人材育成と応急処置普及に加え、日本側も自身の技術の高さを再認識

- ・ 保健省の認可を受けた教材がカンボジア全土で活用可能になり、日本の救急医療の技術が普及された。
- ・ 州保健局SNS（フォロワー約10万人）を通じた情報が広く発信され、市民の救急医療に関する理解が向上した。
- ・ 日本国内での報告会やメディア掲載を通じて、国際協力への市民参加・理解が促進された。
- ・ 日本側関係者にとっても、日常的に提供している救急医療技術がカンボジア側から高く評価されたことにより、日々の業務へのモチベーション向上に加えて、自分たちの技術の高さを再認識できた。